



STANDARD®

C8800G

144MHz トランシーバー

超高感度 マイクロコンピューター内蔵

取扱説明書



日本 **プランツ** 株式会社
プランツ 商事株式会社

目次

1. お使いになる前に.....	1	⑥ メモリー周波数を変更するとき.....	11
2. 特 長.....	2	⑦ メモリー周波数を呼び出す方法.....	11
3. 各部の名称と動作説明.....	3	⑧ 周波数スキャンの方法.....	11
4. 取付け方法.....	5	⑨ 呼出し周波数(145.00又は145.50MHz) の選択.....	13
5. マイコンを使った運用方法.....	8	⑩ その他の操作(便利な使い方の例).....	13
(1) 運用に当って.....	8	(3) 受信の方法.....	13
(2) マイコンの操作.....	8	(4) 送信の方法.....	14
① チャンネルステップの選択.....	8	(5) アクセサリー端子.....	14
② 電源スイッチとバックアップスイッチ.....	8	(6) 圧電ブザーの音量調整.....	14
③ 通常の周波数選択.....	9	6. 申請書の書き方.....	15
④ 周波数をメモリーさせる方法.....	9	7. 保証・アフターサービスについて.....	15
⑤ ACCESSORY機能.....	11	8. 定 格.....	16

このたびは、144MHz トランシーバー C8800G をお買
上げいただきまして誠にありがとうございました。
この C8800G は、当社の厳重な品質管理及び検査のも
とに生産、出荷されておりますが、万一ご不審な点、
お気付きの点などがございましたら、なるべくお早め
にお買い上げいただいた販売店あるいは当社営業所、サ
ービスセンターへお申し付けください。
C8800G の性能を十分に発揮し、末永くご愛用いただ
くためにこの取扱説明書を最後までよくお読みくださ
るよう、お願いいたします。

1. お使いになる前に

■設置場所

- C8800G の設置場所として次の点に留意してくださ
い。
- ① 高温、多湿、ほこりの多い場所、特に日光が直接
当る場所は避け、風通しのよい乾燥した場所に設
置してください。
 - ② ヒートシンクの冷却効果を妨げないよう、背面及
び底面には十分スペースをとってください。
 - ③ 車に取付ける際には、C8800G の背面が直接シー
トにふれないようにするなど放熱には十分配慮し
てください。また、なるべく振動を直接受けない
場所や状態での運用を心がけてください。

■電源について

- ① C8800G は DC13.8V で運用可能です。大型車な
ど 24V バッテリーには使用できませんのでご注意
ください。
C8800G はメモリーをバックアップできますので、
4-(4)項をよくお読みください。
- ② AC100V から使用する場合は、別売のパワーサプ
ライに接続してお使いください。

■アンテナについて

C8800G の性能を十分に発揮していただくためにも
特性の優れたアンテナをご使用ください。
アンテナの SWR は 1.5 以下になるようにアンテナを
調整し、使用してください。SWR が悪いと正規の
送信電力が出なくなります。アンテナの SWR が 4
～ 5 以上になると、保護回路が動作して、送信電力
が減少し、終段トランジスターを保護します。

付属品

● UP-DOWN ハンドマイク (MP-716)	1
● DC 電源コード	1
● 脚	1
● モービル・ブラケット	1
● 9 ピンプラグ	1
● ブラケット取り付けビス	1
● 取扱説明書	1
● 保証書	1
● 回路図	1

2. 特 長

■画期的なマイコン内蔵

C8800 Gはモービル・トランシーバーの最先端を行くマイコン内蔵の画期的なトランシーバーです。

マイコンにより「記憶」「考え」「判断」を行ない周波数をコントロールします。

●マイコンは次の動作を行ないます。

- ①任意の周波数を最大5メモリーできます。
- ②メモリーされたメモリー周波数をスキャンします。
- ③メモリー5チャンネルとCALL2チャンネルの計7チャンネルをスキャンします。
- ④144.000MHzから144.995MHzおよび145.000MHzから145.995MHzを5kHzまた20kHzステップでスキャンします。
- ⑤話し中の周波数を自動的に探索します。
- ⑥空チャンネルの周波数を自動的に探索します。
- ⑦スキャン・スピードを2段に切換えることができます。
- ⑧チャンネルステップを5kHz又は20kHzに切換えることができます。
- ⑨2つの呼出チャンネル(145.00MHz、145.50MHz)を優先的に選択できます。

■すぐれた機能と操作性

●メモリーを正しく保つバックアップ

メモリーされた周波数を保持するために無線機の電源を切ってもつねにメモリーICに電源を入れておくバックアップスイッチが取り付けられています。

電源電圧が低下するとDC-DCコンバーターが動作しメモリーICの電圧を維持しますので、メモリー周波数が消去されることはありません。

●400チャンネル選択可能

1回転24ステップの無接点チャンネル切換スイッチにより最大400チャンネル選択できます。

(20kHzステップのときは100チャンネル、5kHzステップのときは400チャンネル)

●UP-DOWN装置つきマイクロホン

マイクロホンにUP-DOWN装置を組み込みました。
マイクロホン側で周波数を連続的に可変できます。

●見やすく使いやすい傾斜型パネル

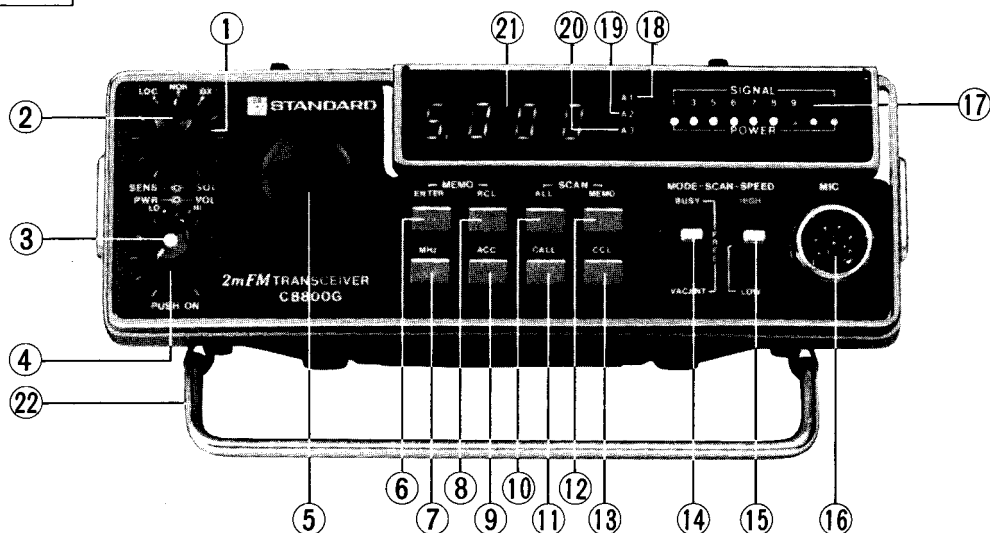
操作性を徹底的に追求した傾斜型パネル、それにメカニカルな機能美、C8800 Gは人間工学面の考慮を十分に取り入れました。

■その他の特長

- DX通信に効果的な受信ブースターを内蔵し受信感度を3段に切換えられます。
- 一般呼出周波数145.00MHz・モービル呼出周波数145.50MHzを内蔵。
- 9LEDの近代的なメーターを採用。
- 目のつかれないグリーン色の4LED周波数表示
- ヘリカル・キャビティの採用により、すぐれた混変調、相互変調特性。
- 8cmの大型スピーカを内蔵。
- 電源ノイズ・フィルター回路の採用により、電源から回り込んで来るノイズを防止。
- 1個のVCOで行なえる受信用と送信用の発振回路。
- 空中線電力は1W/10W切換え可能。
- ダイレクトVCO発振回路の採用により、スプリアスの低減。
- 空中線のSWR並びに電源電圧が変動しても終段トランジスターを保護するAPC回路を採用。
- マイクアンプ部に平均変調度の高い低歪率の変調を可能にしたVOGAD-ICを採用。
- キーボードおよびUP/DOWNスイッチによるコントローラへの命令を音でも確認できるよう圧電ブザーを内蔵。

3. 各部の名称と動作説明

前面パネル



① SENS(SENSITIVITY)

受信感度を DX・NOR・LOC と3段に切換えることができます。遠距離局のときにはDXに、中距離局のときにはNORに、近距離局のときにはLOCに切換えます。

② SQL(SQUELCH)

入力信号がないときにFM特有のザーという雑音を消す場合に使います。右側に少しずつ回して入力信号がないときにノイズが消える位置にセットします。

③ PUSH ON/VOL

音量調節つまみと電源スイッチが兼用となっています。つまみを押すことにより、電源スイッチがON-OFFします。又、音量つまみは右側に回すにしたがって音量が大きくなります。

④ PWR

送信の空中線電力を1W、10Wと切換えるスイッチです。近距離通信のときに使います。

⑤ CHANNEL

チャンネルセレクトスイッチです。周波数の切り換えスイッチで、右側に回転すると周波数が高くなり、左側に回転すると周波数が低くなります。1ステップ5kHz又は20kHz周波数が変化します。

⑥ MEMO ENTER

希望する周波数をメモリーさせるためのボタンです。5つの記憶能力があります。チャンネルスイッチ又はマイクのUP-DOWNスイッチでメモリーしたい周波数にあわせ、このスイッチを押します。

⑦ MHz

MHz切換えスイッチです。144MHz帯、145MHz帯をワンタッチで切換えられます。

⑧ MEMO RCL

メモリーされた周波数を呼び出すためのボタンです。メモリーした周波数を呼び出して運用するには、このボタンを押します。M1～M5の希望の周波数をM1から順に呼び出すことができます。

⑨ ACC(ACCESSORY)

このボタンを押すことによりアクセサリA₁、A₂、A₃の選択ができます。

⑩ SCAN ALL

このボタンを押すことにより、144.00MHz～145.99MHzの間隔を5kHz又は20kHzステップで全周波数スキャンします。

⑪ CALL

呼出周波数145.00MHzと145.50MHzの優先選択と、この2つの周波数の切換えボタンです。1度目で145.00MHz、もう1度押すと145.50MHzになります。

⑫ SCAN MEMO

このボタンを押すことによりメモリー回路に記憶された周波数をM1から順に5チャンネルスキャンします。又このボタンを押す前にCALLボタンを押すことにより、CALLチャンネル(145.00MHz、145.50MHz)の2チャンネルをプラスしてC₁→C₂→M₁→M₂→M₃→M₄→M₅の順でスキャンさせることができます。

⑬ CCL

各動作モードをキャンセルします。

⑭ SCAN MODE

スキャンの動作中に、話し中のチャンネル又は空チャンネルを探し出すためのスイッチです。BUSY側にすれば話し中のチャンネルを、VACANT側にすれば空チャンネルを探し出します。

⑮ SCAN SPEED

スキャンのスピードを切換えるスイッチです。
HIのとき 1ステップ 0.25sec.
LOWのとき 1ステップ 2.0sec.

⑯ MIC

マイクロホンを接続する端子です。

⑰ メーター

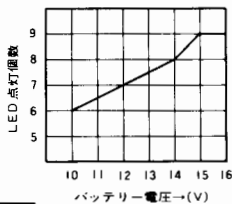
9LEDによる近代的なメーター回路です。SIGNALは入力信号の強弱を、POWERは送信出力を表示します。又、**ACC**ボタンの操作により次に説明するA₁、A₂、A₃に従った動作をします。

⑮ A 1

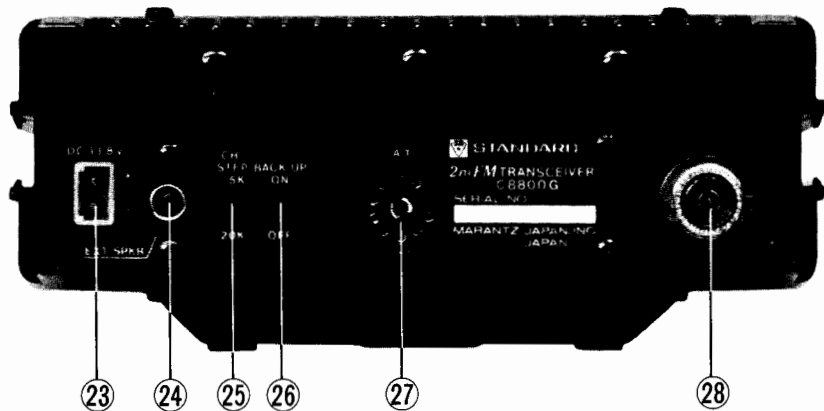
メーター表示がVUメーターとして動作していることを示します。
受信時は入力信号検波後の AUDIO 信号レベルを表示します。
送信時は変調機の AUDIO 信号レベルを表示します。

⑯ A 2

メーター表示がバッテリーインジケータ表示になっていることを示します。



背面パネル



⑳ DC 13.8V

DC電源の入力端子です。付属の接続コードを使い、+ (プラス)、- (マイナス)の極性に注意して正しく接続してください。

㉑ EXT SPKR

外部スピーカを接続する端子です。インピーダンスは4～8Ωです。

㉒ CH STEP

周波数の1ステップを5kHz、又は20kHzと切替えるスイッチです。

㉓ A 3

メーター表示がPLLの異常動作を示すアンロック表示になっていることを示します。
PLLが何かの原因で異常動作した場合は9個のLEDが全て連続点灯します。このときは送信、受信共動作しません。

㉔ 周波数表示

周波数を表示します。145.500MHzを受信しているときには、周波数表示用発光ダイオードで5.500と下4桁を表示します。又CALLボタンを押すと、4桁目に「C」が表示され、「CALL」中であることを示します。

㉕ スタンド

固定局で使用するときに使います。

㉖ BACK UP

無線機の電源スイッチを切ったとき、メモリーICに電圧を加えて、メモリー周波数を保持するスイッチです。
長時間自動車を使用していないときには必ずバックアップスイッチを切ってください。

㉗ A.T. (ACCESSORY TERMINAL)

アクセサリ端子です。各端子の機能詳細はアクセサリ端子の項を参照してください。

㉘ ANT

アンテナを接続する端子です。インピーダンスは50Ωです。

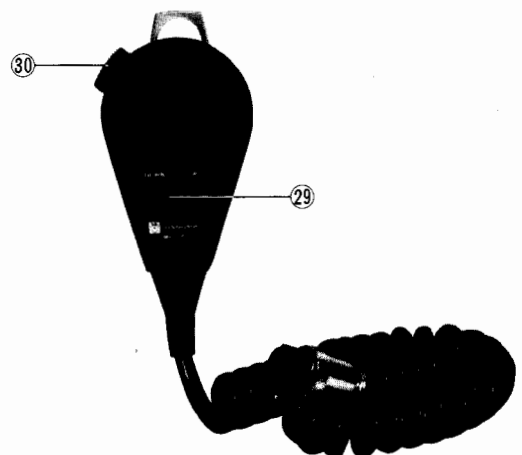
マイクロホン

㉙ UP-DOWNチャンネルスイッチ

周波数の上げ、下げを連続的に可変できるボタンです。

㉚ PTT

送信用のプレストークスイッチです。押すことにより送信状態になります。



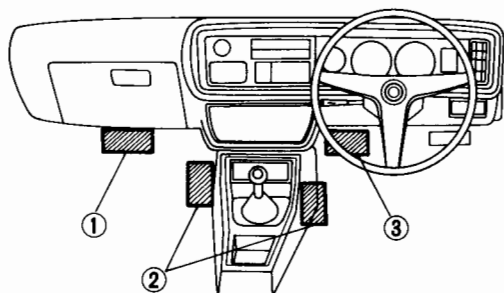
4. 取付け方法

モータールの場合

(1) セットの取付け

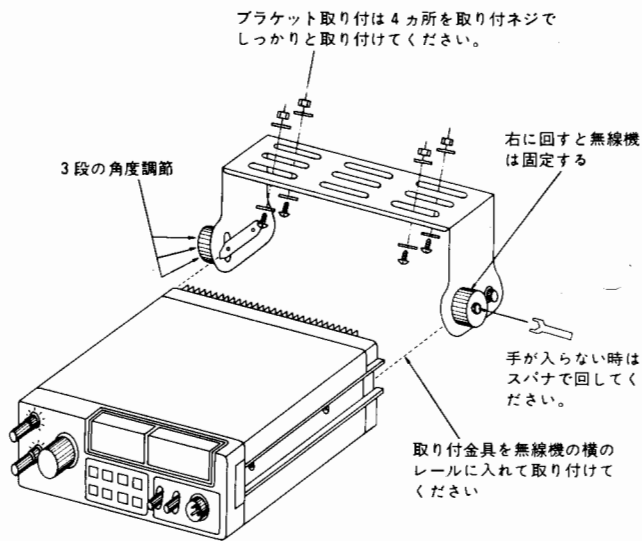
●取付け位置

- ① ダッシュボードの下
- ② コンソールボックスの横
- ③ 運転席の下



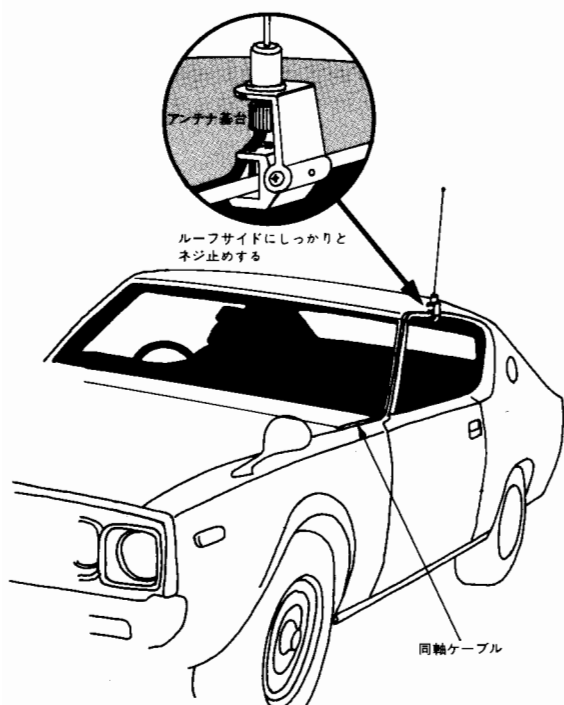
●ブラケット(付属)による取付け方法

3 段の角度調節、前後の取付け位置自由の万能取付け金具です。

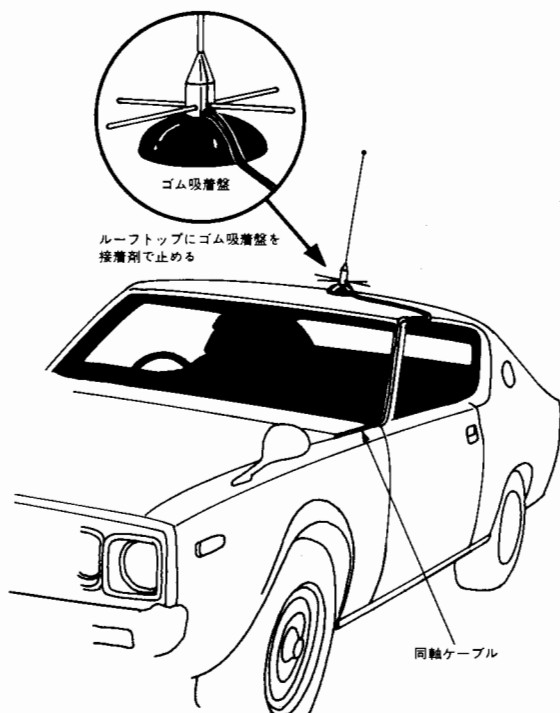


(2) アンテナの取付け

●ルーフサイド式

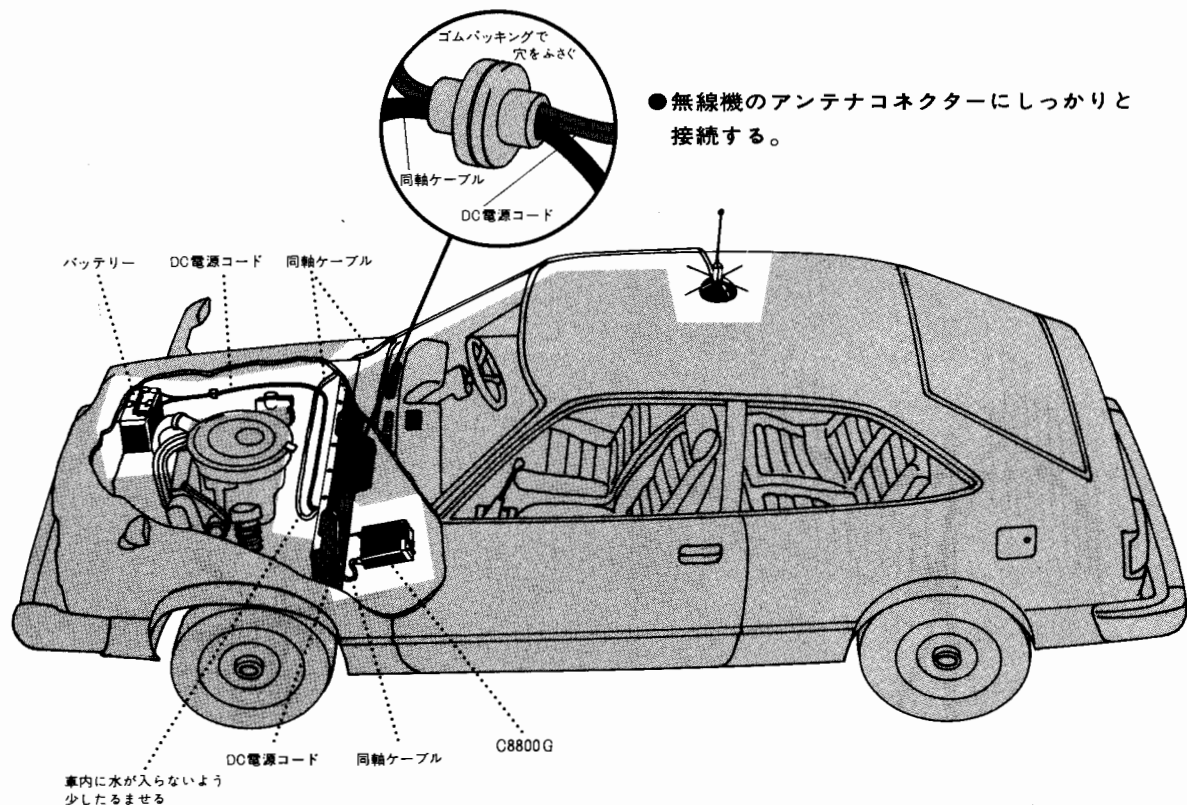


●ルーフトップ式



(3)同軸ケーブルの接続

●ボンネットから引き込む

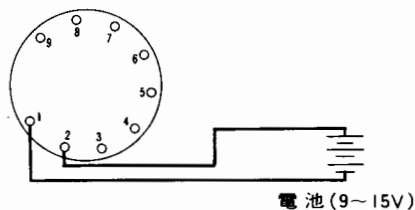


●無線機のアンテナコネクターにしっかりと接続する。

(4)電源の配線

●電源コードを車のバッテリーに直接接続しておき、後面の **BACK UP** スイッチを **ON** にしますと、C8800G はセットの電源を切っても、メモリーを保持することができます。もし、電源コードをエンジンキーと連動する電源に接続しますと、**BACK UP** スイッチを **ON** にしてあってもメモリーを保持できません。

又、後面の **ACC** 端子 2 番ピン (+ 側) と 1 番ピン (Gnd) の間に 9 ~ 15V の別電池を接続し、**BACK UP** スイッチを **ON** にしておくと、セットを車からはずしてもメモリーは保持されます。

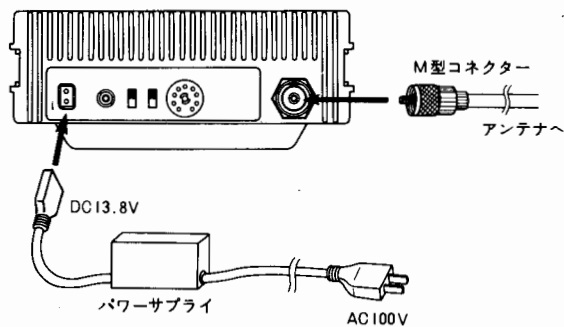


〈注〉DC電源コードの配線は、発熱するエンジン等にふれないよう配線し、テープで止めてください。

固定局の場合

(1)電 源

100V から使用する場合 は別売のパワーサプライをお使いになると便利です。



●電源を車のバッテリーより直接取らずに、エンジンキーオフの時に電圧の出るラインより取る場合スターターを回す時のみ **OFF** になるラインがあります。テスターで確認の上、スターターを回しても **OFF** にならないラインより電源を取ってください。

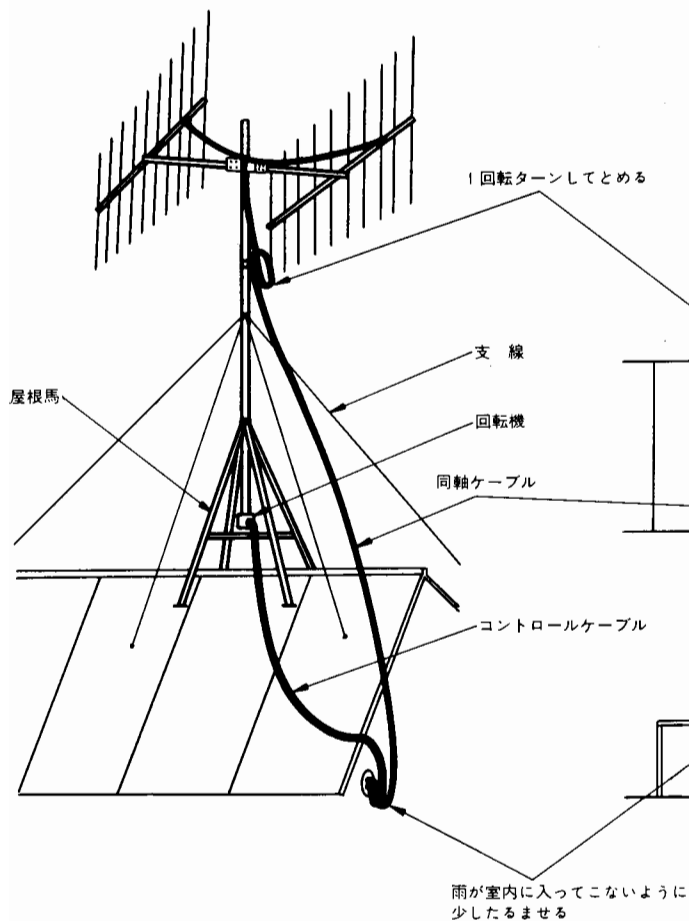
(2) アンテナの取付け

アンテナの性能及び取付け方によって、送信、受信の具合が大きく左右されます。性能のしっかりしたアンテナを選び、取付け後の調整も念入りに行なってください。

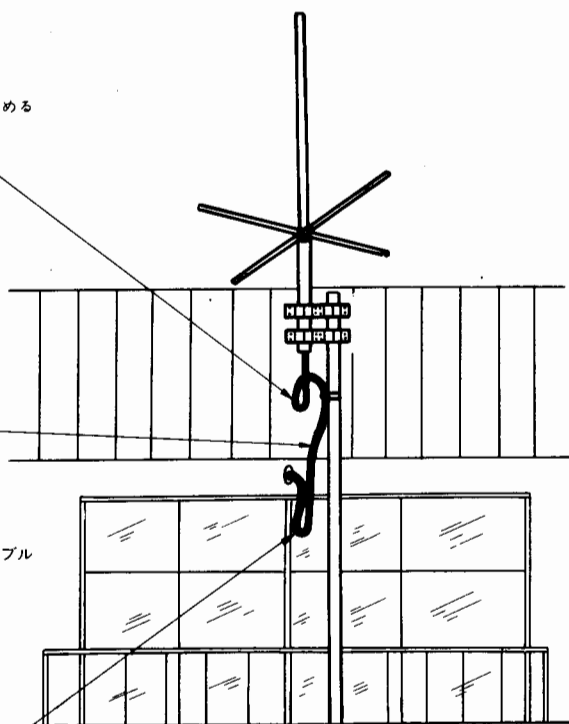
また、セットとアンテナを結ぶケーブルが長くなり

ますと、損失が大きくなります。同軸ケーブルは、なるべく短く配線するようにします。10mまでは5D-2V、30mまでは8D-2Vか10D-2Vをご使用ください。

〈屋根に取り付けた時〉



〈ベランダに取り付けた時〉



5. マイコンを使った運用方法

電源、アンテナ、マイクが正しく設置されたら実際に運用してみます。

(1)運用に当って

●144MHz帯使用区分

144MHz 帯においては、下表に示されているバンド使用区分がJARL(日本アマチュア無線連盟)によって制定されていますので、この使用区分にそった運用をお願いいたします。

運用の際には使用電波のルールや慣習に十分注意し無用のダブルが生じないようにご配慮ください。

●JARL制定144MHz帯使用区分

144MHz		144.100	144.200	145.000	145.500	145.600	145.825	146MHz
通 信 方 式		JARLビーコン	FM呼出周波数		移動用呼出周波数			
			AM		FM	FM 特定周波数	全電波型式	アマチュア衛星
			SSB					
			SSTV		(SSTV)	145,520		
			A9			145,540		
			RTTY		(RTTY)	145,560		
			CW		(CW)	145,580		
帯域幅	2kHz 以下		6kHz 以下	16kHz 以下		40kHz以下		
摘 要	主として月 面反射通信 など	主として 遠距離通信			モービル 専用		衛星に対応する 方式で運用する	

(2)マイコンの操作

①チャンネルステップの選択

まず、お好みによって、後面のSTEPスイッチで5kHzステップにするか、20kHzステップにするかを選択します。このSTEPスイッチは、電源スイッチを入れた状態で切り換えることができます。

②電源スイッチとバックアップスイッチ

- a. 初めて電源を入ると、マイコンのプログラムにより、145.00MHzになります。
- b. もし、電源コードが車のバッテリーに直接接続されていれば、後面のバックアップスイッチがONされている状態で、電源スイッチをOFFすると、OFFする直前の状態がマイコンにより記憶され、次に電源スイッチをONさせると、OFFさせる直前の状態になります。(但しスキャン動作は記憶されません。)

<例>

①周波数が145.240MHzになっている場合



→電源スイッチ OFF→

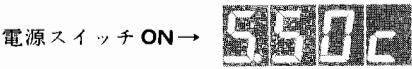


電源スイッチ ON→

②周波数がコールチャンネル5.50Cになっている場合



→電源スイッチ OFF→



電源スイッチ ON→

③ 通常の周波数選択

ロータリースイッチ又は、UP-DOWNスイッチで選択します。

● UP-DOWNスイッチの動作は次の通りです。

a. C8800Gの専用マイク(MP-716)には、UP-DOWNチャンネル・スイッチがついております。

スイッチをUPに押し続けると、高い周波数へ、又DOWNに押し続けると、低い周波数へそれぞれ1チャンネル120msのスピードで変化します。

b. UP-DOWNチャンネル・スイッチがはなれると、その時点で表示されていた周波数で停止します。

c. UP-DOWNチャンネル・スイッチが押されている時間が、0.5秒以下であれば、1ステップ進んで停止します。

d. UP-DOWNチャンネル・スイッチの動作中は、他のすべてのキーの動作はできません。プレストーク・スイッチを押して送信すると、スキャンは停止します。

e. **ALL** 又は **MEMO** 又は **CALL** を押しているときはUP-DOWNチャンネル・スイッチは動作しません。また、送信中はUP-DOWNチャンネル・スイッチは動作しません。

④ 周波数をメモリーさせる方法

A最初にメモリーさせるとき

電源を入れて、初めに周波数をメモリーさせるときは、次の方法で行なってください。

C8800GはM1・M2・M3・M4・M5の5つの記憶回路を内蔵しており、5つの周波数をメモリーできます。

M1へのメモリー

a. **RCL** を押して、まずM1を呼出します。
(**RCL** キーを押す直前の周波数が145.000MHzとします。)

メモリーされていないとき 
点滅する

(4デジット目、右下のドットが点滅してM1にメモリー周波数のない事を表示します。)

b. 希望する周波数にロータリースイッチ又はUP-DOWNスイッチで合わせる。(145.400MHzのとき)

希望する周波数を表示する 
点滅する

c. **ENTER** を押すと、M1にメモリーされます。


点灯する

d. **RCL** を押して、M1にメモリーされた周波数を確認します。



M2へのメモリー

a. もう一度 **RCL** を押すとM2を表示します。

メモリーされていないとき 
点滅する

b. 希望する周波数にロータリースイッチ又はUP-DOWNスイッチで合わせる。(145.500MHzのとき)


点滅する

c. **ENTER** を押すと、M2にメモリーされます。


点灯する

d. **RCL** を押して、M1にメモリーされた周波数を確認します。



e. **RCL** を押して、M2にメモリーされた周波数を確認します。



M3へのメモリー

a. **RCL** を押すと、M3を表示します。

メモリーされていないとき 
点滅する

- b. 希望する周波数にロータリースイッチ又は **UP-DOWN** スイッチで合わせる。(145.600MHzのとき)

5600

点減する

- c. **ENTER**を押すと、**M3**回路にメモリーされます。

5600

点灯する

- d. **RCL**を押して、**M1**にメモリーされた周波数を確認します。

5400

- e. **RCL**を押して、**M2**にメモリーされた周波数を確認します。

5500

- f. **RCL**を押して、**M3**にメモリーされた周波数を確認します。

5600

M4へのメモリー

- a. **RCL**を押すと、**M4**を表示します。

5600

点減する

- b. 希望する周波数にロータリースイッチ又は **UP-DOWN** スイッチで合わせる。(145.700MHzのとき)

5700

点減する

- c. **ENTER**を押すと、**M4**回路にメモリーされます。

5700

点灯する

- d. **RCL**を押して、**M1**にメモリーされた周波数を確認します。

5400

- e. **RCL**を押して、**M2**にメモリーされた周波数を確認します。

5500

- f. **RCL**を押して、**M3**にメモリーされた周波数を確認します。

5600

- g. **RCL**を押して、**M4**にメモリーされた周波数を確認します。

5700

M5へのメモリー

- a. **RCL**を押すと、**M5**を表示します。

5700

点減する

- b. 希望する周波数にロータリースイッチ又は **UP-DOWN** スイッチで合わせる。(145.800MHzのとき)

5800

点減する

- c. **ENTER**を押すと、**M5**回路にメモリーされます。

5800

点灯する

- d. **RCL**を押して、**M1**にメモリーされた周波数を確認します。

5400

- e. **RCL**を押して、**M2**にメモリーされた周波数を確認します。

5500

- f. **RCL**を押して、**M3**にメモリーされた周波数を確認します。

5600

- g. **RCL**を押して、**M4**にメモリーされた周波数を確認します。

5700

- h. **RCL**を押して、**M5**にメモリーされた周波数を確認します。

5800

これで、**M1**から**M5**まで全部に希望の周波数をメモリーさせ終わりました。

⑤ ACCESSORY 機能

A₁、A₂、A₃を周波数と一緒にする方法

アクセサリ A₁、A₂、A₃も周波数と一緒にメモリーすることができます。メモリーの方法は周波数メモリーと同じ要領で行います。

- RCL** を押し M₁ を呼び出します。
 - 希望周波数に合わせます。(メモリー表示ドット点減)
 - ACC** を押し A₁、A₂ 又は A₃ を選択します。(メモリー表示ドット点減)
 - ENTER** を押し M₁ に周波数と一緒にアクセサリの A₁、A₂ 又は A₃ がメモリーされます。(メモリードット点灯)
 - RCL** を押し M₁ にメモリーされた周波数とアクセサリの機能ポジションを確認します。
- 以下 M₂～M₅ まで周波数メモリーと同じ要領でアクセサリの各機能をメモリーすることができます。

⑥ メモリー周波数を変更するとき

メモリーされている周波数を変更したいときは、簡単に新しい周波数がメモリーされます。

＜例＞M 2のメモリー周波数を変更するとき

(この例は、M2にある145.800MHzを145.400MHzに変更するとき)

- RCL** を押し、M 2になるまで順に押します。
(145.800MHzがメモリーされているとき)

5.800
点灯している

- UP-DOWN** チャンネル・スイッチ又はロータリーチャンネルスイッチを回して希望の周波数に合わせます。
(145.400MHzのとき)

5.400
点滅する

- ENTER** を押し、メモリーさせます。

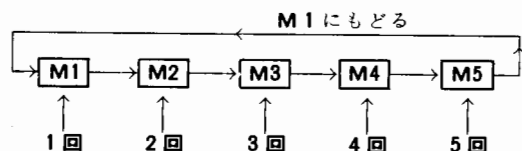
5.400
点灯する

- RCL** を 2 回押し、M 2 にメモリーされたことを確認します。

5.400

⑦ メモリー周波数を呼び出す方法

- RCL** を 1 回押し、M 1 にメモリーされている周波数を表示します。もう一度 **RCL** を押し、M 2 にメモリーされている周波数を表示します。順に **RCL** を押すことにより、M 3・M 4・M 5 と表示されます。したがって呼び出したいメモリー番号がある場合、その回数だけ **RCL** を押すことになります。



なお、6 回目から M 1 にもどります。

この場合、チャンネルセクターの位置はどこになっても又、スキャン状態中でも **RCL** が優先です。

- しかし、**CALL** キーが押されて、**145.00C** 又は、**145.50C** のときは、この **RCL** は効きません。キャンセル **CCL** を押し **CALL** 状態を解除すると **RCL** できます。

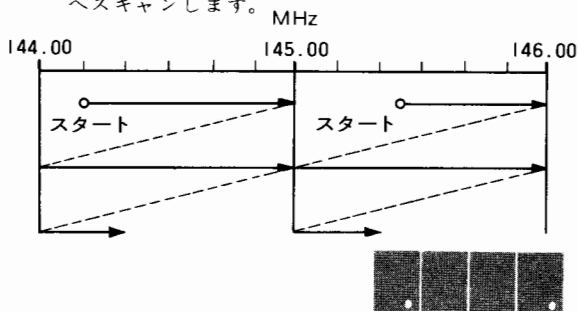
- RCL** で、メモリー周波数になっているとき、**CCL** でメモリーを解除すると、**RCL** で押す直前の周波数に再び戻ることができます。

⑧ 周波数スキャンの方法

A 全周波数をスキャンするには

周波数を自動的に移動させる方法で、全周波数スキャンとメモリー周波数スキャンの方法があります。又、スキャンのストップモードは三種類あります。

- 144MHz帯又は145MHz帯をスキャンするには、
 - MHz** を押し144MHz帯又は145MHz帯を選びます。
 - 次に
 - ALL** を押しとスキャンを開始します。
 周波数はスキャンさせる直前の周波数から高い方へスキャンします。



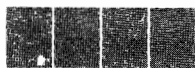
スキャン中は約1秒サイクルで点滅する。

スキャン時間

チャンネル スイッチ	20kHz STEP (1 MHz) 50チャンネル	5kHz STEP (1 MHz) 200チャンネル
fast scan	約 12.5 秒	約 50 秒
slow scan	約 1 分40秒	約 6 分40秒

b. 話中のチャンネルを探すには**スキャンモード・スイッチ**を

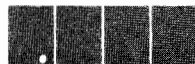
- **BUSY** 側に切換えます。
- スケルチ・ボリュームを調整します。
- 入力信号がある周波数の場所でスキャンを停止します。
- 入力信号がなくなると、ふたたびスキャンを開始します。



停止中も点滅します

入力信号がなくなったとき、ふたたびスキャンを開始する表示です。

- **プレストーク・スイッチ**を1回押して送信すると、入力信号が無くなっても、スキャンを開始しません。



点滅を中止する

c. 空チャンネルを探すには**スキャンモード・スイッチ**を

- **VACANT** 側に切換えます。
- スケルチ・ボリュームを調整します。
- 入力信号のない周波数の場所でスキャンを停止します。
- 入力信号があると、ふたたびスキャンを開始します。



停止中も点滅します

入力信号がなくなったとき、ふたたびスキャンを開始する表示です。

- **プレストーク・スイッチ**を1回押して送信すると、入力信号が有ってもスキャンを開始しません。



点滅を中止する

d. 連続的にスキャンするには**スキャンモード・スイッチ**を

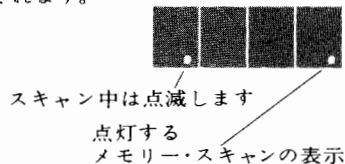
- **FREE** 側に切換えます。
- スケルチ・ボリュームを調整します。
- 入力信号の有無に関係なく1チャンネル0.25秒、又は2.0秒でスキャンします。

e. スキャンの動作を中止させるには

- **CCL** を押します。
- 又は**プレストーク・スイッチ**を1回押して送信します。

5つのメモリー周波数をスキャンするには

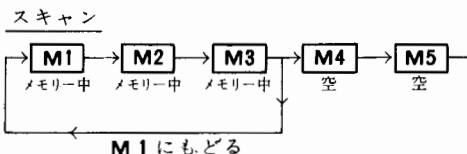
a. **MEMO** を押すと、**M1**から順に**M2・M3・M4・M5**とスキャンされます。



- 5つ全部メモリーされているとき



- **M4・M5** にはメモリーされていないとき

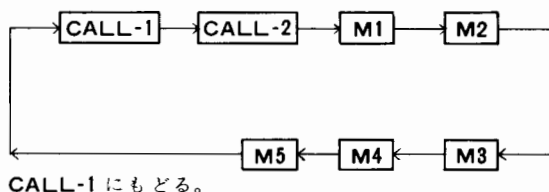


b. メモリー周波数と**CALL**周波数を一緒にスキャンしたい場合は、

CALL → **MEMO** の順でキーを押します。

M1 ~ **M5** までメモリーされている時のスキャンサイクルは次のようになります。

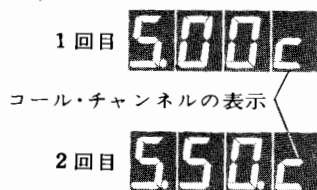
スキャン



c. 話中のメモリーチャンネルを探すとき、空メモリーチャンネルを探すとき、連続的にメモリーチャンネルをスキャンさせるときは、夫々オールチャンネルスキャンと同じ方法で**スキャンモード・スイッチ**を選択します。

⑨ 呼出し周波数(145.00又は145.50MHz)の選択

- a. **CALL** を1回押すと、最優先で145.00 MHzとなります。もう一度押すと、145.50 MHzとなります。さらにもう一度押しますと、145.00 MHzへ返ります。このとき、表示 **C** が追加され、呼出し周波数を選択したことを示します。



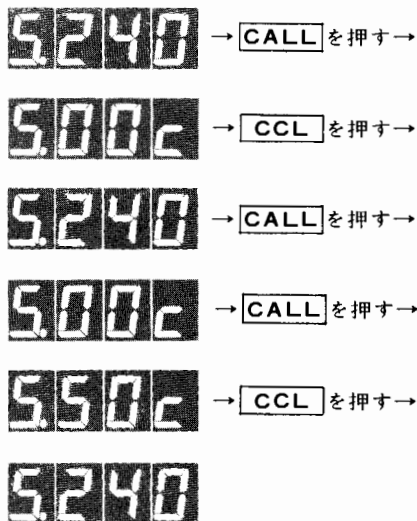
- b. **CCL** で解除するか又は **MEMO** キーを押さない限り他のキーを押しても効きません。
CCL で解除すると、**CALL** を押す直前の周波数に戻ります。
MEMO キーを押すことによりメモリー周波数とCALL周波数を一緒にスキャンします。

⑩ その他の操作(便利な使い方の例)

- a. **CALL** キーと **CCL** キーを使うことにより、コールチャンネル二波と他の任意の一波を自由に呼び出すことができます。

〈例〉

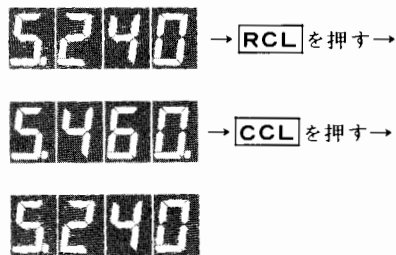
ロータリースイッチ、あるいはUP-DOWNスイッチで145.240MHzになっている場合



- b. **RCL** と **CCL** を使うことにより、M1にメモリーされた周波数と他の任意の周波数の二波を自由に呼び出すことができます。

〈例〉

M1に145.460MHzがメモリーされていて、ロータリースイッチ、あるいは、UP-DOWNスイッチで145.24MHzになっている場合



- c. オールスキャン、あるいはメモスキャン中に**プレストーク・スイッチ**を押して送信すると、スキャン動作は停止します。
この動作を利用して、スキャン中に希望する周波数になった時、あるいは希望する相手局を発見した時手元のマイクロホンで瞬間送信することでスキャンを止めることができます。
- d. マイクロホンのUP-DOWNスイッチで1チャンネルずつ手動でスキャンできます。

(3)受信の方法

1. **PUSH ON/VOL スイッチ③**を押すと電源が入ります。メモリーがバックアップされていないときは、必ず145.00 MHzでスタートします。
2. **VOL ツマミ③**を回して適当な音量に調整します。
3. **SENS ツマミ①**を回してLOC・NOR・DXと移動する場所の電波の状態により切替えます。
4. **SQL ツマミ②**を回して信号がないときにノイズが消える最良点に調整します。
5. 希望する周波数に切替えます。周波数を切替える方法としては次の操作方法があります。
 - a. **チャンネル切換えスイッチ⑤**で切替える。
 - b. **UP-DOWNチャンネルスイッチ②⑨**で切替える。
 - c. **CALL スイッチ⑪**を押して145.00MHz・145.50MHzを呼出す。
 - d. **SCAN ALL⑩**を押して全周波数スキャンします。
SCAN MODE スイッチ⑭を切替えることにより、次の動作を行ないます。
 - **BUSY** に切替える。
話中の周波数で停止します。
 - **VACANT** に切替える。
空チャンネルの周波数で停止します。

● **FREE** に切替える。

スキャンを行ない周波数の状態を調べます。

SCAN SPEED スイッチ ⑮を2段に切替えることができます。

SCAN STEP ⑳を10kHzと20kHzに切替えることができます。

e. **SCAN MEMO** ⑫を押して、メモリーされた周波数をスキャンします。

SCAN MODE スイッチ ⑭を切替えることにより、次の動作を行ないます。

● **SCAN ALL** のときと同じ

(**SCAN MODE スイッチ**、**SCAN SPEED スイッチ**)

f. **MEMO RCL** ⑧を押して、メモリー周波数を呼び出します。

これらの操作は、(2) マイコンの操作の項で詳しく説明してありますので参照してください。

6. C8800G は超高感度に設計されており、DXポジションでは混変調等の影響を受ける場合があります。より高い特性を発揮させるために、**SENS ツマミ**により、受信感度を次のように三段に切替えてお使いください。

DX ポジション：DX通信の時に使用してください。

NOR ポジション：通常の通信の時に使用してください。

LOC ポジション：他局からの混信が多い時に使用してください。

(4)送信の方法

■電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり運用されています。これらの無線局の至近距離で電波を発射すると、アマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することがあり、移動運用の際には十分ご注意ください。

特につぎの場所での運用は原則として行なわず、必要な場合は管理者の承認を得るようにしましょう。
民間航空機内、空港敷地内、新幹線車輦内、業務用無線局および中継局周辺等。

①送信しようとする周波数で他局に妨害を与えないことを確めます。

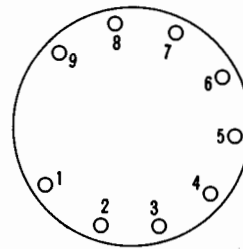
②送信の空中線電力を **LOW** か **Hi** を **PWR スイッチ** ④で決めます。

近距離での交信では**LOW**ポジションをおすすめします。

③**プレストーク・スイッチ** ㉑を押して送信します。マイクロホンに5～10cm位の距離で話してください。

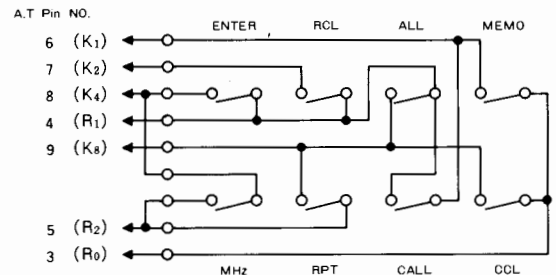
(5)アクセサリ端子

①後面のアクセサリ端子は下図の様に接続されています。



1	GND	キーボード用端子
2	EXT BACK UP	
3	R ₀	
4	R ₁	
5	R ₂	
6	K ₁	
7	K ₂	
8	K ₄	
9	K ₈	

②リモート用キーボードを接続する場合は次に示す回路のものをご使用ください。



(6)圧電ブザーの音量調整

圧電ブザーは底蓋(スピーカ側)に取り付けられています。音量調整の半固定抵抗器は圧電ブザー用コネクタの横に位置していますので底蓋の4本のネジを取り、底蓋を持ち上げる事によりマイナスインドライバーで調整することができます。

6. 申請書の書き方

本機によりアマチュア無線局を申請する場合には、市販の申請書に下記事項を記入し、間違いのないことを確認して申請してください。

〔工事設計書〕

区 分		第 1 送 信 機	第 2 送 信 機
発射可能な電波の型式 周波数の範囲		電波の型式 F ₃	電波の型式
		144MHz帯	MHz帯
変調の方式		可変リアクタンス変調	
終 段 管	名称 個数	2 S C 2103A × 1	X
	電圧 入力	13.2V 20W	V W
送信空中線の型式			
その他 工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している	

- C8800 G は JARL 認定登録機種ですので、送信機系統図の記入を省略することができます。送信機系統図の欄には C8800 G とご記入ください。
- 登録番号 S-20

第 1 送信系統図

- 送信型名 C8800 G (日本マランツ)
S-20

7. 保証・アフターサービスについて

- この商品には保証書を別途添付してあります。
保証書は「販売店印・保証期間」をご確認のうえ、販売店からお受取りいただき、よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より 1 年間です。
正常なご使用状態で、この期間内に万一故障の節は、お買いあげ販売店、又は弊社営業所で保証書記載事項に基づき「無償修理」いたします。
- 保証期間経過後の修理。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買いあげ販売店、又は別紙の弊社営業所に遠慮なくご相談ください。

ご近所に迷惑をおかけしないように注意しましょう

楽しい送信も、時と場所によっては気になるものです。特に、静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。窓をしめて音を外にもらさないようにしたり、ポリウムの調整やヘッドホーンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、こころよい生活環境を守りましょう。

8. 定 格

① 一般仕様

送受信周波数	144~146MHz
電波型式	F ₃
マイク入力インピーダンス	600Ω
スピーカインピーダンス	8Ω
電 源	DC13.8V
寸 法(巾×高×奥)	168×58×240mm
重 量	3.0kg

② 受 信

受信方式	ダブル・スーパーヘテロダイン
中間周波数	1st 1F 10.7MHz 2nd 1F 455kHz
受信感度	DX時 -10dB (20dB QS) -12dB (12dB SINAD) NOR時 0dB (20dB QS) -1dB (12dB SINAD) LOC時 +10dB (20dB QS) +9dB (12dB SINAD)
通過帯域巾	±7kHz(-6dB)
選択度	70dB以上

スケルチ感度	-15dB
低周波出力	2W(10%歪率 8Ω負荷)
負荷インピーダンス	8Ω
受信無信号時の電流	0.6A

③ 送 信

送信出力	10W
負荷インピーダンス	50Ω
スプリアス比	65dB
最大周波数偏移	5kHz
変調方式	可変リアクタンス変調
低周波周波数特性	300Hz~3000Hz
送信時の電流(Hi)	3.5A

本機の規格および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

日本 マランツ 株式会社
マランツ 商事株式会社

〒228 神奈川県相模原市上鶴間3622

ご注意：お問合せはマランツ商事各営業所で承っておりますので
全国営業所一覧をご覧ください。